

# 通常の学級における発達障がい等支援事業 第1回地区別事業報告会(南河内地区)

平成25年7月23日10:00～11:30 (狭山池博物館)

当日参加者108人(幼稚園・こども園20 小学校55 中学校19 その他14)

## 1. 実践報告

### <大阪狭山市立 西幼稚園> 「みんなが安心できる環境づくり」

どの子にもわかりやすい保育の環境づくりや気持ちの表現の指導について、アドバイザースタッフからの指導を受けた。日々の保育の環境を見直し、視覚支援や環境の工夫を行うことで、子ども達の生活がより安心できるものになってきた。また、「どんな気持ちボード」を作成し、子どもたちが使う中で自分の気持ちを知ったり、考えたりするきっかけとなった。今後は、お互いの気持ちを認め合う仲間づくりを推進したい。



### <大阪狭山市立 第七小学校> 「だれもがわかる」授業づくりと集団づくり

今年度、校内研究の視点として①表現力の育成②どの子にもわかる授業③主体的な学びの姿を掲げ、支援教育の視点から実践を進めている。アドバイザースタッフには、授業への支援として「わかる」授業づくりに向けた授業改善の視点として8項目をご指導いただいた。ご指導を受け、実践に取り組む中で「わかった」「できた」「がんばってよかった」という、学習における自己肯定感を育てていきたい。



### <大阪狭山市立 第三中学校> 「授業改善」・「ルールづくり」

子ども支援委員会が学校の現状を把握し分析する中で、授業での「授業規律」「ルールづくり」を通した「授業改善」の必要性が浮き彫りとなった。アドバイザースタッフからは、学校・学年で統一した、教室環境の整備、授業の「めあて」「まとめ」の掲示などユニバーサル化について指導をいただいた。今後は、各クラスごとのアセスメントの結果を活用しながら、さらに授業改善の取り組みを進めていきたい。



## 2. 指導助言

(指導助言のポイント)

大阪狭山市幼小中のつながりについて

- ①幼稚園では、お互いの気持ちの理解を大切にすること、また、自分の気持ちの表現のスキルを身につける実践
- ②小学校では安心安全な学校づくりの中で、わかる授業での自己肯定感を育む実践
- ③やがて思春期を迎える中学校にあっては、教職員も一つになり困り感のある子どもも含めたすべての子どもとつながる指導。

幼少中の発達年齢に応じた指導の役割と連携の流れができつつある。今後の取り組みとして、自己肯定感を高める保育・授業づくりを推進していくことが大切である。



<指導助言者>  
大阪府教育委員会サポートチーム  
<コーディネーター>  
大阪狭山市教育委員会事務局

# 通常の学級における発達障がい等支援事業 第2回地区別事業報告会(南河内地区)

平成26年2月6日15:15～17:00 (狭山池博物館)

当日参加者81人(幼稚園・こども園24 小学校39 中学校14 その他4)

## 1. 実践報告

### 〈大阪狭山市立 西幼稚園〉「わかる保育とは」

視覚化、構造化、協働化を意識した環境と、気持ちの指導を続けていることで、集団が育ってきているとの助言をいただき、継続して取り組んできた。子どもの変容としては、楽しみながら自然にルールが守れるように、また、良い行動を自ら選べるようになってきた。自分で見通しをもって行動できるようにする「トランジションカード」もクラス全体のものとして浸透している。「どんな気持ちボード」は、子ども同士の認め合いに役立っている。同じ中学校区の幼稚園とも連携し、小学校へとつないでいきたい。



### 〈大阪狭山市立 第七小学校〉「だれもがわかる」授業づくりと集団づくり

安心できる「規律づくり」「授業づくり」「人間関係づくり」の3つの視点で取り組んでいる。「規律づくり」では、高学年が主体的な動きをつくりだすことで児童全体の意識が変わった。「授業づくり」では、小田先生の「わかる授業のステップとステージ」の助言を教職員が共有し、学んだことを「実用的理解」へと導く授業展開を意識している。「人間関係づくり」では、他者から見た自分の良さを掲示するレインボーメッセージの取り組みを通して、自己肯定感を高める集団づくりに取り組んでいる。



### 〈大阪狭山市立 第三中学校〉「授業改善」・「ルールづくり」

すべての子どもにとって、わかる授業をめざし、いただいた助言をもとに、「授業規律」や「ルールづくり」等の生徒指導面からのアプローチとともに、授業の焦点化・ユニバーサルデザイン化を進めている。その結果、発問に対する聞き返しが減るなどの変化が現れた。また、子ども支援委員会が中心となって、アセスメントシートを活用した、教科のちがいを越えた子ども理解に取り組んでいる。今後、小・中学校間の引き継ぎでの連携方法を検討している。



## 2. 指導助言(大阪府教育委員会サポートチーム) (指導助言のポイント)

- ◆ 3校園の実践より学ぶ…アドバイザースタッフ派遣時の各校園それぞれの授業やこれまでの実践について、内容、観点ごとに成果を検証。
- ◆ 学級集団のアセスメントについて…アセスメントシートの紹介と実際の活用について、実態把握からはじまる支援のあり方についての示唆。
- ◆ 今後について…①すべての子どもにわかりやすい授業 ②すべての子どもが認め合える集団づくり ③学校園全体での一貫した指導 ④幼・小・中の校種間のスムーズな引き継ぎ等、次年度の事業につながる助言。



〈指導助言者〉  
大阪府教育委員会サポートチーム

# 通常の学級における発達障がい等支援事業 第3回地区別事業報告会(南河内地区)

平成26年11月28日15:00～16:50 (大阪狭山市立第七小学校)  
当日参加者87人(幼稚園・こども園11 小学校46 中学校23 その他7)

## 1. 実践報告

### ＜大阪狭山市立 西幼稚園＞「わかる保育とは」

「どの子にもわかりやすい保育の環境」、「気持ちの指導」について2年間取り組んできた。今年度は、「わかる保育とは」について、小田先生からご指導いただいた5つの視点から視覚支援や、環境の工夫を行ってきた。子どもたちは、活動のめあてがはっきりして、タイマーなどで作業時間の見通しが持てるようになると、子どもたち同士で、相手の状況を考えて「がんばろう」など励みにつながる声掛けが自然に増えてくるようになった。小学校就学につながるよう取り組んでいきたい。



### ＜大阪狭山市立 第七小学校＞「だれもがわかる」授業づくりと集団づくり

これまで事業を通して取り組んできたことを生かして、授業展開の工夫や支援を研究するため、教科研修部会を発足させた。5つの部門(国語、算数、理科・生活、道徳)で、それぞれ研究に取り組む中で、すべての部門でサポートチームによる研修会を行い、実践への具体的な助言をいただき取り組みを進めることができた。どの教科も教室環境・学習環境・学習規律を整えることを土台として、視覚化・構造化・協働化を意識して授業の構成を考え取り組むとともに、板書のパターン化や指導案の工夫などにも取り組んでいる。



### ＜大阪狭山市立 第三中学校＞「授業改善」・「ルールづくり」

授業改善の必要性から、「子ども支援委員会」を立ち上げ、昨年度よりいただいた指導助言により実践研究を進めてきた。ユニバーサルデザインに基づく授業の構造化とともに、今年度は、アセスメントシートの各項目を活用して、困り感のある生徒の具体例をリストアップし、個に応じた支援の手立てを検討した。さらに、効果のあった手立てを学校全体で共有し、活用できるように取り組んでいる。



## 2. 指導助言・講演

自己肯定感を育む安心できる

集団づくり・「わかる」授業づくり

(指導助言のポイント)

◆ 3校園の実践より・・・事業に取り組んだ2年間で、教職員の意識が一つの方向に向かっていることが、公開授業における教室環境や授業の構成からよく伝わってきた。授業におけるナチュラルサポートがよく意識されている。今後も研究を続けることでより深めていくとともに、この成果を市全体に発信されることを期待している。



＜指導助言者＞  
大阪大谷大学 小田 浩伸 先生